

科目名	看護実践基盤学Ⅲ(アセスメント技術)			ナンバリング	PEB122	授業形態	演習
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	大堀 昇	担当教員	○大堀昇、木部美知子、矢澤香代子				

授業の概要	人の健康状態に関するアセスメント技術および看護における観察について学修する。看護の対象者は、個人、家族、集団にまで及ぶ。この対象者の健康状態および健康生活を精神的・身体的・社会的な視点から理解し、看護が必要とする状態を臨床的に判断し、エビデンスに基づき看護援助の提供へ展開するためのアセスメント視点を身につける。対象のヘルスアセスメントについて、理論的な基盤から、対象の捉え方、考え方、アセスメントの視点とその方法について学修する。						
到達目標	1. 対象の健康状態および健康生活を身体的・精神的・社会的な視点から把握するための観察、アセスメント技術について説明できる。 2. フィジカルアセスメント技術を実施できる。 3. 看護援助が必要な状態を判断するためのアセスメントの視点について説明できる。 4. 事例に対して看護援助が必要な状態を判断し記述できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	人体の構造と機能、生化学、人間栄養学、薬理学、疾病治療論の授業科目とは関連性の高い内容であるため、これらの復習をして授業に臨んでほしい。また、看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)で学修した看護の考え方が基盤となるため復習をしておいてほしい。講義で使用するスライド資料は、manab@IMUからPDFファイルとしてダウンロードできる。予習(資料の閲覧)と復習(アセスメント技術の自己練習)を必ず行うこと。予習と復習それぞれおおよそ90分の学習時間を確保すること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
		1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマンイズムと倫理観を身につけている。					
	○	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
	○	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの概念を記述できる。 2.フィジカルイグザミネーションの基本技術を実施できる。 3.得られた健康に関する情報の正常・異常を評価できる。 4.看護援助が必要な状態を判断するための情報収集、アセスメントをして記述できる。	1.人体の構造と機能等に関する専門用語を用いてフィジカルアセスメントの方法と判断を解説できる。 2.フィジカルイグザミネーション技術を事例に適用できる。 3.ヘルスアセスメントとして看護援助が必要な状態について評価することができる。 4.看護援助が必要な状態と原因・誘因となっている状態・状況についてアセスメントできる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○						40%
小テスト・授業内レポート	○	○			○		20%
宿題・授業外レポート	○	○			○		5%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		5%
実技試験	○	○		○	○		30%

課題、評価のフィードバック	1.小テストは授業中に解答、解説を行う。 2.演習、技術確認では事前に評価基準を学生に開示する。指導はOJT方式で行う。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	ヘルスアセスメントと看護師の役割	1. ヘルスアセスメントとは 2. ヘルスアセスメントと看護師の役割	
	第2回	フィジカルアセスメント技術	1. 看護における観察、フィジカルアセスメントの意義 2. フィジカルイグザミネーションの基本技術 3. フィジカルアセスメントの視点	
	第3回	系統別フィジカルアセスメント①	全身のアセスメント (全身の外観、身長、体重/皮膚、爪、髪/リンパ系のアセスメント)	
	第4回	系統別フィジカルアセスメント②	頭頸部、感覚器系のアセスメント (頭部、顔面、頸部/鼻、耳、口腔、咽頭/眼のアセスメント)	
	第5回	系統別フィジカルアセスメント③	筋・骨格器系のアセスメント	演習
	第6回	系統別フィジカルアセスメント④	感覚器系のアセスメント 脳・神経系のアセスメント 認知機能、高次機能のアセスメント	演習
	第7回	系統別フィジカルアセスメント⑤	呼吸器系のアセスメント	演習
	第8回	系統別フィジカルアセスメント⑥	循環器系、乳房・腋窩のアセスメント	演習
	第9回	系統別フィジカルアセスメント⑦	消化器系のアセスメント	演習
	第10回	系統別フィジカルアセスメント⑧	生殖器系・肛門のアセスメント	
	第11回	生活支援のためのアセスメント①	動くことのアセスメント	
	第12回	生活支援のためのアセスメント②	眠ることのアセスメント	
	第13回	生活支援のためのアセスメント③	食べることのアセスメント	
	第14回	生活支援のためのアセスメント④	排泄することのアセスメント	
	第15回	生活支援のためのアセスメント⑤	清潔にすることのアセスメント	
	試験	中間試験は行わない		

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	生活支援のためのアセスメント⑥	生活支援の視点からのアセスメント演習	演習
	第17回	恒常性維持のためのアセスメント①	液性調節のアセスメント	
	第18回	恒常性維持のためのアセスメント②	バイタルサイン(意識、呼吸、体温、脈拍、血圧)の基礎知識 バイタルサインの測定方法 バイタルサイン測定の結果の解釈	
	第19回	恒常性維持のためのアセスメント③	バイタルサイン測定の実施	演習
	第20回	恒常性維持のためのアセスメント③	バイタルサイン測定の実施	演習
	第21回	恒常性維持のためのアセスメント④	事例へのバイタルサイン測定の適用	演習
	第22回	恒常性維持のためのアセスメント④	事例へのバイタルサイン測定の適用	演習
	第23回	メンタル・ソーシャルアセスメント	ストレス・コーピングのアセスメント	
	第24回	メンタル・ソーシャルアセスメント	ストレス・コーピングのアセスメント	
	第25回	ヘルスアセスメント演習①	ゴードンの11の機能的健康パターンの枠組みを用いてのアセスメント演習	演習
	第26回	ヘルスアセスメント演習①	ゴードンの11の機能的健康パターンの枠組みを用いてのアセスメント演習	演習
	第27回	ヘルスアセスメント演習②	健康段階における看護目標の視点からのアセスメント演習	演習
	第28回	ヘルスアセスメント演習②	健康段階における看護目標の視点からのアセスメント演習	演習
	第29回	フィジカルイグザミネーション技術の確認	既習のフィジカルイグザミネーション技術の確認	演習
	第30回	フィジカルイグザミネーション技術の確認	既習のフィジカルイグザミネーション技術の確認 まとめ	演習
	試験	期末試験を実施する		
授業の進め方		授業の初めに小テスト(確認テスト)を実施する。演習を取り入れながら学修する。基本技術を身につけてから事例への適用へ、応用問題へと展開していく。		
授業外学習の指示		人体の構造と機能などの専門基礎科目を復習すること。DVDや動画アプリ等を活用し学修を深める。 フィジカルイグザミネーション技術の自己練習をすること。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	ナーシンググラフィカ 基礎看護学②ヘルスアセスメント第5版、メディカ出版、2018.
参考書	授業の中で指示する
参考URLなど	授業の中で指示する
その他	